



川口市西新井宿で「まるはら」と農園「園主を務める伊藤勝博さん(55)は、異業種との連携を深め、都市型農業の手本となるよう、かんきつ類の販売や加工品開発に取り組んでいる。

約2・3畝の畑で植木類

農商工連携で加工品

伊藤 勝博さん(川口市)



温州ミカンの出来を確かめる伊藤さん

や果実、サトイモ「八つ頭」などを栽培。中でも夏ミカンや温州ミカン、ユズの仕組みづくりを研究するなど、かんきつ類の栽培に力を入れる。

伊藤さんは住民主体のボランティア活動団体「新井宿駅と地域まちづくり協議会」の一員。農業者と消費

同会を通じて地元のビール醸造所やパン店などと、夏ミカンを使った地ビール「神根ゼゾン」、スイーツパン販売などの農商工連携

を行う。

「都市化が進むこの町で農地を守っていくためには、地域住民への理解を得ながら農業をしていく必要がある」と話す伊藤さん。

周囲には住宅が並ぶため、比較的消毒が少ない木を選択。草が生えても草刈り機が入りやすいよう、碁の目状に植えるといった工夫を凝らす。

地域住民が立ち寄った際には、気軽に畑を案内し、どこか懐かしさを感じさせる地元のコミュニケーションの場を目指している。

今後について伊藤さんは「埼玉・川口の農家という付加価値を大事に、新たな展開を進めていきたい」と展望を話す。

(さいたま)